

1 学年通信

Practice Makes Perfect

担当：木戸嵩人

◎ 上級生に向けて

高校生活もう半年を過ぎ、新しい環境に慣れていないという言い訳もできなくなる。体験入学会もあり、みなが上級生となり後輩への指導を求められる状況も着実に近づいている。

まだまだ先のことに感じる人もいるが、気を抜いている暇はない。10月には来年度のコース別説明会があり、今後の高校生活、高校卒業後の君たちの人生を決めるための判断を求められることになる。勝負の時期まで残り2年となり、今後どれだけの人々が満足の行く準備ができ、挑戦していくことができるのだろうか。

実際に今年の3年生に話を聞いた時も、「もう大丈夫!」と自信をもって答えられる人、「全然時間がない」「もっと早く勉強（準備）しておけばよかった」と答えてただただ焦る人、他にもさまざまな気持ちを持つ人がいた。



時間はみな平等に与えられているはずだが、このような気持ちの差はどうして生まれてしまうのだろうか。

その時々状況、時間、言葉など、人によって受け取り方、感じ方はさまざまであり、この考え方の違いがその人の個性になったり価値観となったりする。漢字や英単語においても、同じ一つの言葉でも複数の意味を持つものがあり、その時々に合わせて使い分け、また、相手に対してどのように伝わっていくのかを考えなければならない。

皆が感じている時間に対する考え・気持ちの差が生まれてしまった原因は何だろうか。すべてはその人の感覚、受け取り方次第であり、その感覚は今まで経験・体験してきたことや、読書・会話などで見聞きしてきた中にあると思う。そのうえで、次の言葉を考えてほしい。



『「楽」におぼれず、「楽しい」思い出をつかみ取ろう!』

「楽」という漢字には、「らく」という読み方、「たのしい」という読み方、使い方がある。ほかにも多くあると思うが、特にこの二つの使い方、言葉の意味は真逆の状況を表すことができるものだと思う。

「らく」をする。と聞くと聞こえがよく、皆も選択したい気持ちがあると思う。でも、その選択は本当に自分のためにつながっているのだろうか。人類の進歩、文化の発展、技術の向上、このすべての根本に現状から「らく」をしたいという考えがあるのは間違いないことであり、その気持ちに対する追求が現在の社会となっていると思う。しかし、実際に「らく」をしてきては今のような社会の発展はない。

今の生活で「らく」ができる、「たのしい」生活が送れているのは先人の苦勞があつてこそであり、このことからどんなことに對しても、ある一定の苦勞、努力をしなくては本当の意味での「たのしさ」は勝ち取れないのではないだろうか。

「らく」をするのは簡単なことであり、その場は「たのしい」と感じることもあると思うが、その気持ちはあまり長続きせず、その場しのぎになってしまうことも少なくない。本当の意味での「たのしさ」、「たの

しい」思い出は、その結果に向けて頑張ってきた人が勝ち取れるものであり、その努力の積み重ねが結果や自信として、忘れることの無い一生の宝となるのではないだろうか。



話を元に戻すが、進路を決める試験、部活動の最後の大会といった人生をかける大勝負を目前として、自信を持ち試験に立ち向かう準備のできている人もいれば、戦う前から諦めていたり言い訳を探している人、後悔をしている人もいるように感じる。前者は、現状におごることなく地味なこと、基本的なことを継続していくことが目標達成につながっているということを良く理解できている人である。

高校生活悔いのないものとするためにも、どんなことに対しても積極的に全力で取り組んでいこう！！

☆10月（神無月）の行事予定・月訓『積極進取』

1	土	文化祭②	17	月	後期生徒会役員立候補者受付(～10/28)
2	日	第一種電気工事士筆記試験			身だしなみ指導、色覚検査
3	月	1年朝礼(各科コース説明会)	18	火	
4	火	執行部合同会	19	水	
5	水		20	木	身だしなみ指導(再)
6	木		21	金	40分×6限授業、体験会準備
7	金	常任委員会	22	土	第2回体験入学会、受験対策講座⑨
8	土	後援会研修会	23	日	
9	日	第2回実用英語技能検定(一次)	24	月	
10	月	スポーツの日	25	火	
11	火	2学期中間試験①、色覚検査	26	水	
12	水	2学期中間試験②、 保護者対象コース別説明会	27	木	
			28	金	後期生徒会役員立候補者受付締切
13	木	2学期中間試験③	29	土	愛産大 OC
14	金	2学期中間試験④	30	日	愛産大 大学祭、第二種電気工事士筆記試験
15	土	愛産大 OC	31	月	全校朝礼(月訓：「読書」)
16	日	情報技術者試験			

☆コラム『自分の人生を誰にゆだねるのか』

「その船を漕いで行け お前の手で漕いで行け お前が消えて喜ぶ者に お前のオールを任せるな」

TOKIO の「宙船」の一説である。

高校生活も半年が過ぎ、通学距離・時間は長くなったかもしれないが、授業と部活・補習の毎日は、一見中学時代とは変わらないと感じている人もいるだろう。しかし、努力を続けてきた人にとっては、少しずつ成果が出てくるころである。部活も資格試験も進学補習も「努力なくして成果なし」である。

あなたの人生の主役はあなた自身である。あなたに現れる結果のすべては、あなたの行いが生み出したのだと考えれば、困難もたくましく乗り越えることができる。

周囲や環境がどうであれ、自分の行いによって自分が望む人生に近づいていく。この考えが、自分の行動を積極的に行動・反省し、努力するようになっていくのだと考える。

～～～ Team Blue-1 Manager ～～～